

実 用 新 案 公 報

昭33-11375

公告 昭 33.7.31 出願 昭 31.1.17 実願 昭 31-1919

考 案 者	小 島 修 介	東京都中野区仲町18
出 願 人	マクロ光学工業株式会 社	東京都大田区上池上町660
代理人 弁理士	神 保 勉	(余 2 頁)

望 遠 鏡

図 面 の 略 解

第1図は本案望遠鏡を赤道儀として使用の状態を示す側面図、第2図は経緯台として使用の場合の状態を示す側面図、第3図は折畳みたる状態を示す側面図とする。

実 用 新 案 の 説 明

本案は赤道儀及び経緯台に兼用せしめ而も折畳み格納に至便なる望遠鏡の改良構造にして伸縮自在の三脚1を取付けたる架台2の軸承部に短軸筒3を止螺子4を有する軸5により伏仰自在に關着し短軸筒3の先端には鏡筒受軸筒6を廻動自在に軸6'を挿嵌せしめて關着しこの鏡筒受軸筒6の取付け基部にはウォームギヤーaとウォームbとより成る微動装置7を取付け又、鏡筒受軸筒6上部には一側に固定螺子8を設けたる鏡筒受バンド9を設けこの受バンド9は軸10により廻動自在に關着せしめこの受バンド9の取付け基部にも螺子部cと螺子杆dとより成る微動装置11を取付けて成るものである。図中12は鏡筒受バンド9に保持せしめたる望遠鏡、13は鏡筒受軸筒6の下部に取外し自在に装着した平均重錘であり、14は鏡筒受バンド軸10の止螺子とする。

本案は以上の様になるので先づ赤道儀として使用せんとする場合には第1図に示す様に短軸筒の止螺子を緩めて短軸筒を天体の極軸線に一致する角度に仰角を求めて止螺子により締付けて固定するものである。しかるときは短軸筒先端に軸着せられたる鏡筒受軸筒は短軸筒を中心として即ち、極軸線を中心として回動する事が可能であるからこの上方に受バンドにより保持せられた望遠鏡を覗き天体の観測を鏡筒受軸筒の基部に設けたる微動装置を繰りつゝ従来赤道儀と同様になすものである。

又第2図に示す様に経緯台として使用せんとす

る場合には短軸筒を地軸線と平行になる様伏倒して鏡筒受軸筒を地軸線に対し垂直位置に在らしめるときは望遠鏡は水平に保持せられ従つて地上観望の経緯台として簡易に使用出来極めて重宝であるばかりでなく第3図に示す様に折畳む場合には本案は平均重錘を鏡筒受軸筒下部より取外すのみで他の部分は即ち三脚は架台上方に反転して全部起立すしめ更に短軸筒を垂直に起立せしめるときは鏡筒受軸筒の上部に保持せられたる望遠鏡を架台上に直立せしめ得るので三脚と共に適宜支棒により梱包する事が出来るので従来望遠鏡の様に三脚と鏡筒と架台とを分解して収納する手数を必要とせず只単に平均重錘を取外すのみで事足り折畳みに極めて便利であり従つて格納箱も簡単にすみ携行にも至便等の利益を有する考案である。猶望遠鏡は受バンドに設けた固定螺子を緩める事により摺動自在になしたので折畳みの際及び赤道儀経緯台に使用の際は自由に望遠鏡の保持する位置を変更し得る効果を有し上記各種の用途に至便ならしめたものである。

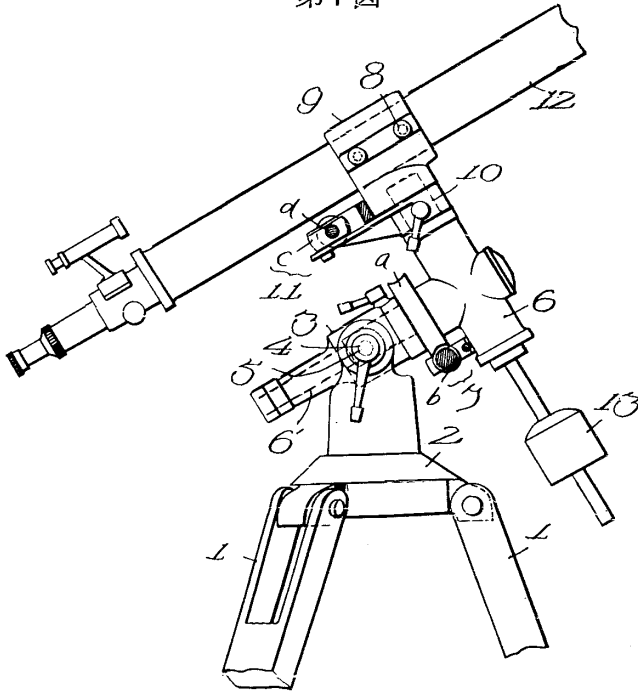
登 録 請 求 の 範 囲

図面に示す様に伸縮自在の三脚1を取付けたる架台2の軸承部に短軸筒3を止螺子4を有する軸5により伏仰自在に關着し短軸筒3の先端には鏡筒受軸筒6を廻動自在に軸6'を挿嵌せしめて關着しこの鏡筒受軸筒6の取付け基部にはウォームギヤーaとウォームbとより成る微動装置7を取付け又鏡筒受軸筒6上部には一側に固定螺子8を設けたる鏡筒受バンド9を設けこの受バンド9は軸10により廻動自在に關着せしめこの受バンド9の取付け基部にも螺子部cと螺子杆dとより成る微動装置11を取付けて成り又鏡筒受軸筒6の下部には平均重錘13を螺着して成る望遠鏡の構造。

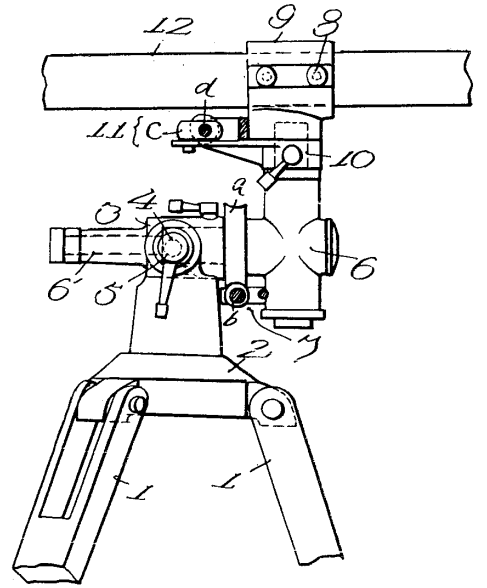
(2)

實用新案出願公告
昭33-11375

第1圖



第2圖



第3圖

